

会津の夏、涼を求めて～会津若松市の納涼スポットをご紹介します。

今年の夏も、各地で35℃を超える猛暑日が記録され、会津若松市も盆地特有のじわじわとくる暑さに包まれました。

しかし、自然に逆らうのではなく上手に付き合えば、この暑さも会津の名物と言えるでしょう。本格的な夏真っ盛りの8月、豊かな自然に囲まれた会津で、自然の涼を探しに出かけてみました。

東山温泉



会津若松市の中心地から車で10分程行くと、会津の奥座敷・東山温泉があります。今から約千三百年前、名僧・行基によって発見されたと言われ、竹久夢二や与謝野晶子などにもこよなく愛された歴史ある温泉郷です。

阿賀川の支流が中央を流れ、温泉街を流れることから「湯川」と呼ばれています。川沿いには足湯があり、清流を眺めながらリラックスできます。上流には雨降り滝、伏見ヶ滝などの涼しげな滝の名所があります。

この日は、東山盆踊りの準備の最中でした。湯川の清流の上に組まれた櫓の周りを、民謡「会津磐梯山」の唄とお囃子に合わせて、市民や温泉客が一緒になって盆踊りを楽しむ、会津の夏の風物詩です。

(8/8 撮影)

会津藩主松平家墓所



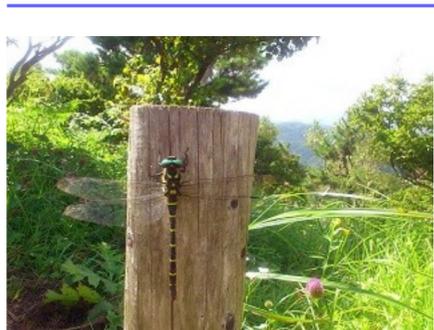
東山温泉から、市内に少し戻った「東山町院内」の山中には、会津松平家のお墓「松平家廟所」があります。通称「院内御廟」と呼ばれ親しまれています。

ここには、二代保科正経公から幕末の九代容保公までの墓があります。約15万平方メートルの森の中に祭られた墓所は、荘厳な雰囲気にあふれ、森林浴や散策もかねて回ることが出来るスポットです。

(8/8 撮影)



背あぶり山



「背あぶり山」は会津盆地と猪苗代湖をへだてる標高870メートルの山です。

昔、地元の人々がこの山を越えて、行商や山仕事に行く途中

「朝は東から上がる太陽を、帰りには沈む夕日を『背中』にあびながら」

家路についたことから、この名がついたといわれています。

また、かつて豊臣秀吉が奥州仕置で会津に来たとき、背あぶり山の峠で休憩したとされ、「関白平」という地名が残っています。



頂上はアスレチック公園やキャンプ場などがあり、親子で楽しめる自然公園となっています。会津若松市内を一望できる眺めと、山沿いに吹く風が爽やかです。

(8/8 撮影)

強清水（こわしみず）



会津の代表的な民謡「会津磐梯山」の中でも唄われている

「会津の名水」としてよく知られており、旧二本松街道の重要な休み処として栄えました。

今も昔の面影を残し、ここを通る人々の喉を潤しています。

(8/8 撮影)

猪苗代湖 中田浜



日本で4番目に広い湖、猪苗代湖。

この夏の時期に、猪苗代湖畔から磐梯山を望む景色は絶景で、運よく風が少ないときは、鏡のような水面に夏の青空と磐梯山を映すこともできます。

湖岸には地元の人や観光客で賑わう湖水浴場があり、特に中田浜は近くにマリナーがありマリンスポーツも盛んです。

松林に囲まれ、波も穏やかな浜は自然を満喫できます。

※猪苗代湖では、例年7月中旬に浜開きが行われます。

(8/8 撮影)



暦の上では立秋ですが、まだまだ暑さが厳しい季節。

秋を前に会津の納涼スポットを回ってみてはいかがでしょうか。